

地域経済のゆくえ

2010年9月11日(土)

講師 早稲田大学 社会科学総合学術院
教授 東 條 隆 進

1 世界経済の現状

広島、長崎の原爆投下(1945年)は、人類史上初の最も残酷な出来事でしたが、この30年間に、何百年間に一度の出来事が起こっています。

第1は、1991年のソ連邦の崩壊。第2は、2008年に起こったリーマン・ショックと呼ばれるものです。難攻不落のアメリカ経済に端を発し、瞬く間に世界に広がって、多くの国が経済危機に陥り、もはや、巨大な財政国家は何処にも無くなってしまったというのが、世界の現状です。

2 山口経済の今と下関経済 地場産業の再編成と関門経済圏の再建

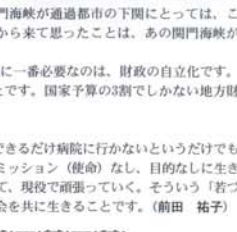
日本の高度成長期(1950~70年代)に、自動車産業やハイテク産業中心の流れに乗らず、下関は赤字再建団体となり、関門橋の架橋(1973年)以後は一層衰退し、その流れは今も続いているのだ。

では下関の強みは?と考えると、関門海峡でした。関門海峡が通過都市の下関にとっては、これ以外にないと思ってきました。経済効果はよく分かりませんが、今、私から外から来たと思うことは、あの関門海峡が一つの商品になってきているという点です。

関門海峡を活かしながら、そこにある産業を起し、観光も含められる。今地域に一番必要なのは、財政の自立化です。地場産業を確立し、その収益で公共政策をし、教育と福祉と医療を充実することです。国家予算の3割でしかない地方財政の下では、その財源は自分たちで積み立てていくほかありません。

3 生涯「社会」現場の現役であり続けるために

私の今のテーマは、ただ一つ、「若づくり」です。国も財源のない医療破綻。できるだけ病院に行かないというだけでも大変な貢献です。我々には、社会の現役であることが絶対に必要です。人間は、ミッション(使命)なし、目的なしに生きることはできないということです。根本的な問題はここです。自分の使命を発見して、現役で頑張ってください。そういう「若づくり」のみが、現在の危機を乗り越えられるのです。自分の役割を担って、良い社会を共に生かすことです。(前田 祐子)



認知症を地域で支え合おう

~手を繋いだら隙間が見える~

2010年10月30日(土)

講師 認知症草の根ネットワーク理事 田代 久美枝

今、なぜこれほど認知症のことが言われるのでしょうか。現在85歳以上の4人に1人が認知症と言われ、テレビでも毎日のように報道されています。もう一つよく言われるのが「無縁社会」、絆の切れた社会で孤独死をしているという。この二つは、繋がっている話なんです。NHKが取り上げている問題は、これらから孤立化が政策として打ち出す課題の前ぶれと言ってもいいでしょう。

この「無縁社会」を裏返せば、「絆を作ってください。地域で、皆さん方とか頑張ってください。高齢化し、財源も無い中で、あなた方が頼りです。」と、言われているように思えます。

予想以上に急速な高齢化と認知症の発症の急増。絆の切れた社会で、もはや現行の介護保険制度では高齢者を支えきれず、介護難民、医療難民という言葉も出ています。こうした現状を乗り越えられるのは、私たちの「繋ぐ力」しかないのです。

しかし、北九州市でも市民の役割は、ボランティアも地域での助け合いの経験も無く、6~7割は関わりと付き合いたくないと思っています。こういう時代だからこそ、高齢者が地域の社会資源になる可能性は高く、積み重ねて来た経験が大変役に立つんです。これをうまく引き出して、機能させないと間に合いません。

認知症を学ぶ中で、家族支援の必要性に気づき、3年前に「認知症・草の根ネットワーク」を立ち上げたわけですが、今、男性の介護の問題が課題です。男性になるべく早く地域づくりに参加し、学んでほしい。手を繋ぐと、隙間(いろいろな課題)が見えてきます。手を繋ぐことによって、将来自分も助けられるのです。(濱田 洋子)



濱田 洋子

...2...



新春お茶会



フラワーアレンジメント



パステル画



ダンス



明治館一読書



バンド

サロンスナップ

● ホームページ開きました ●
http://www.yg-life.net/homoi/

▲ やまぐち県民活動さめき財団理事長表彰

下関市民の活動的な85歳を旨として

2010年10月9日(土)

講演

元気度アップの体力作り

講師 MIKIファント代表 太刀山美樹

両親や祖母の暮らしぶりから「何もなくていい暮らし」は、体に様々な問題を引き起こすことが分かりました。日頃より意識して頭、体を使うようにすべきです。

椅子に座ったまま呼吸法により腹筋・背筋・腹横筋の鍛え方の指導がありました。

車社会で歩かないとか鉛筆や箸の持ち方がきちんと出来ない子供が増えている。家庭、学校、地域の大人皆で次世代の子供達を見守っていただきたい。子供達の明るい未来のために高齢者が地域ボランティアに積極的に関わり、高齢者の知恵で子育てを支えてほしい。

そのために体と頭をよく動かし健康で活動的な85歳を目指して下さい。(月岡 郁子)



アクティブ・シニア

生涯学習通信「風の便り」編集長 三浦清一郎

アクティブな前向きな年寄りとなるためには、活動することが元気の処方である。元気だから活動するのではなく、活動するから元気なのである。

人間の機能は使わなければ確実に衰える。また、使いすぎても壊れる。故に、ほどほどの負荷をかけて使い続けることが大事である。人生50年代には一生を「労働」で終わっていたが、今や人生80年代になり労働が終わった後に「活動」が必要となってきた。そして、その活動は自分のためだけにするのではなく、社会に貢献する役割を果たすことである。

また、その活動の場は自分で見つけ出さなければならぬ。

生涯現役を続けるためには「読み・書き・体操・ボランティア」である。(延谷 鏡子)



シンポジウム

パネリスト: 三浦清一郎・太刀山美樹 コーディネーター: 樋口 紀子

三浦: 退職後の御主人が家にいると、奥さんはストレスがかなり病気になる。余生は活動をやめ、楽に悠々自適の生活をすることは、自立を続けるためにも、社会活動を続け、機能を衰えさせないようにしていきたい。自分のためのボランティアという本を書きましたが、生涯現役をめざして、社会貢献をしていきたいですね。一番の貢献は、次世代を育てることです。豊津で「等子屋」を立ち上げ、活動していますが、子供も愛わり、お年寄りも変わります。自分の居場所がある、必要とされているということでお年寄りが生き生きと暮らすのです。

太刀山: 親と同居している場合、お嫁さんが社会活動をすることをお姑さんが支えてくれると助かります。高齢者だけでなく、若いお母さんも、子育ての時期は社会から離れていくことの不安を抱えているんですね。また、最近の子供は運動能力が以前と比べても落ちています。3歳までに体面調節ができるよう、外で遊ばせましょう。高齢者が子供たちに生活上の知恵を伝承していくことも大事ですね。

樋口: 人のため世のために活動をしていることが、実は、その人が一番元気になるんですね。そのような活動をやっている方には、ぜひ皆さん、エールを送ってあげてください。そして生涯現役の元気が85歳を旨とするために、誰かのための活動をしましょう。

☆会場からも、小さな社会活動や実践をしている方から質問や報告があり、市民がそれぞれ関心を持ち、市にも働きかけて、高齢者の居場所とシステムを作っていくという呼びかけがありました。(中野 直子)



中野 直子

...3...



ホームイ通信

No. 11
2011.4

高齢社会をよくする下関女性の会
(ホームイ)

代表 田中 隆子
TEL/FAX 083-253-4892

やまぐち女性財団助成事業

市民福祉講座のパート2として、さる2010年11月23日に市民会館において家事評論家の吉沢久子氏に講演していただきました。講演後のアンケートから「先生はステキな人な目標です」「老後の不安がふっつき、心が元気がなった」との声が多く寄せられました。

92歳。小さなしあわせを集めて生きる

講師 吉沢 久子 (家事評論家)

■「健やかな老い」とは?
私は92歳ですが、40年書き続けている新聞のコラムなど、まだ仕事もあり、食べることは全部自分でしております。長命は歓迎すべきですが、大事なのは元気に暮らすことです。

老人が、健康で自立しているという表れの一つは外出で、買い物とか何か見に行くとか、行動力と言えましょうか。また、新聞を読むとか、地域社会のいろんなことに参加し、他の人のためにも何かする。こういうことができる人は、非常に健やかに老いていると言えらるのだと思います。

私も、「自分のことは自分で」を基本に、一人暮らしを気遣ってくださるご近所の方にも決して甘えず、感謝の気持ちをしっかり表すように心掛けております。この頃、社会のマネーとかコミュニケーション能力といったものが欠けてきたとよく言われます。生活の中で、「うまく人と付き合えること」が、孤独にならないために重要なことで、老いても楽しく生きる基本だと思います。

物忘れも多く、足などに年相応の衰えを感じますが、「もう駄目かしら」と思うより、「私も始まったかしら」と、老いを自然に受け入れることが大事だという気がしております。

■楽しみをどう作るか
小さな庭ですが、四季折々の花や野菜を作り、それが形になっていくのがとても楽しみです。それをサラダや煮物にしたり・・・。根を植えておくと、思いがけない芽が出ていて、「ああ幸せ、私食べられる」って、本当に小さな喜びが私の元気の元になっています。お友達が来



吉沢 久子

ると、お汁に青物を浮かべて、幸せって話しましてね、夕陽がきれいだと、長い時間眺めていてうれしいんです。さきやかも大事なものを見過さないことが、自分の世界を豊かにしてくれると思うのです。

■目標にする人を持ち、チャレンジする
女子栄養大学の創始者香川綾先生は、96歳でもかしくとして講義をされ、先生にあやかりたいと、毎朝牛乳粥を食べたりしております。女優の北林谷菜さんも、90代で見事に老妻役を演じ、「弱った弱ったと言っても仕様が無い。今日の力を明日に繋げる努力が一番大事よ。」と語られ、とても感激いたしました。

最近、MR1を撮って、70代くらいの脳だと診断され、「70歳前後で生活を変えたんだね。」と言われて驚きました。65歳で夫と死別し、家族優先の生活から、自分のために生きる楽しみが考えられるようになったので、この歳でも、一回も使わない脳部分がたくさんあり、使わないと駄目なんですね。「もうできない」と思うより、「明日何をしよう」と思う方が楽しいし、諦めないで一生懸命チャレンジしていいかと思っています。

「功成り名遂げた」と思うのが一番駄目です、呆けやすいそうなんです。ですから何人かのためになれば、「高齢社会をよくする女性の会」や「老人給食の会」などに入っております。(大谷 芳子)



大谷 芳子

...4...